

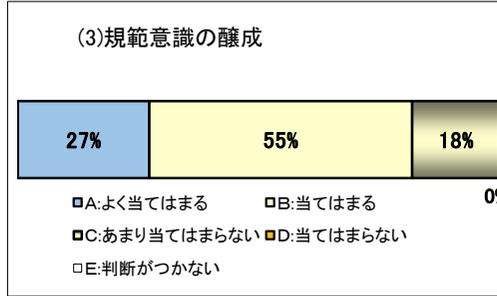
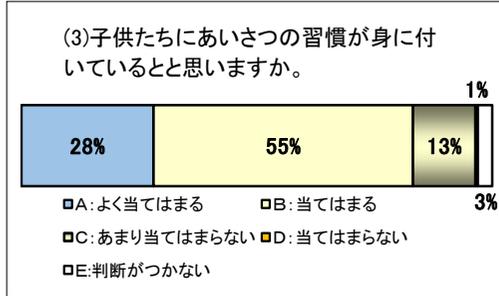
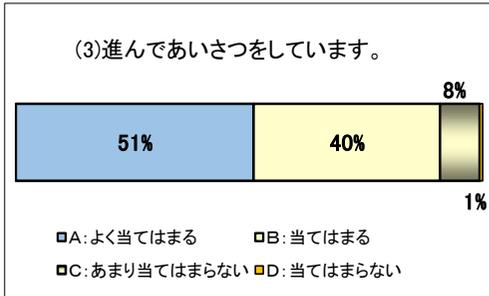
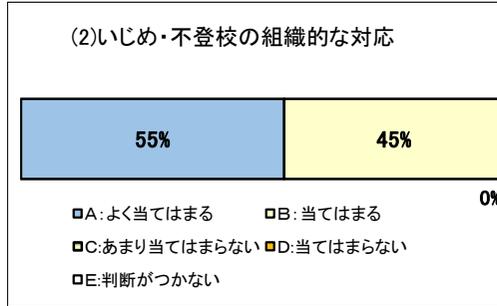
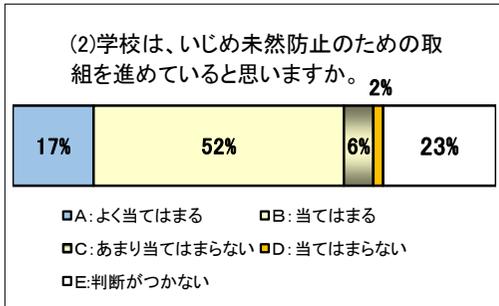
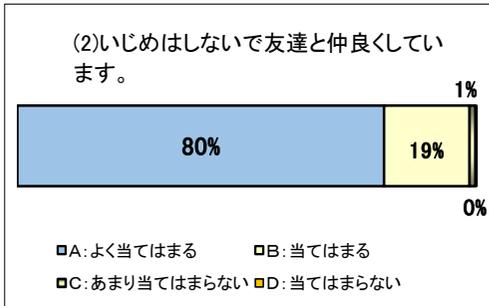
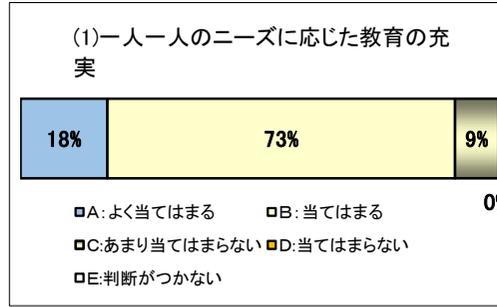
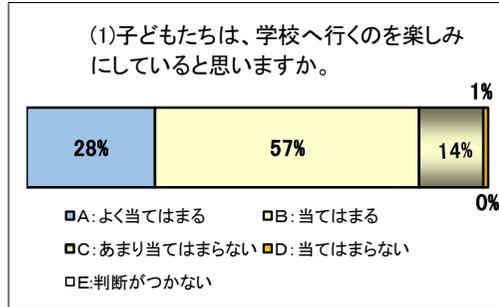
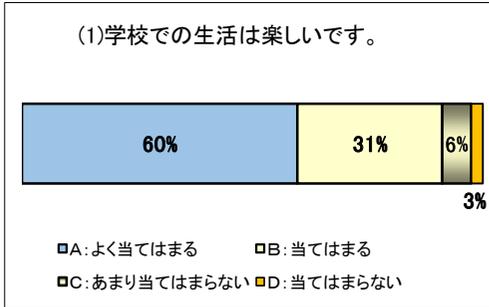
児童・保護者・教職員アンケート結果

令和5年2月22日

令和4年度 児童(回収率94.4%)

令和4年度 保護者(回収率75.4%)

令和4年度 教職員(回収率100%)



(1)児童、保護者の肯定的な回答が、昨年度とほぼ同様である。児童が主体的・対話的に取り組める場の工夫、やりがいを感じる場の設定など、魅力ある学校づくりに努める。
【自由記述より】
休んだ児童への学習支援やオンライン授業の案内を望む意見があったことから、周知の工夫や担任外の教職員も含めた支援の充実を図っていく。

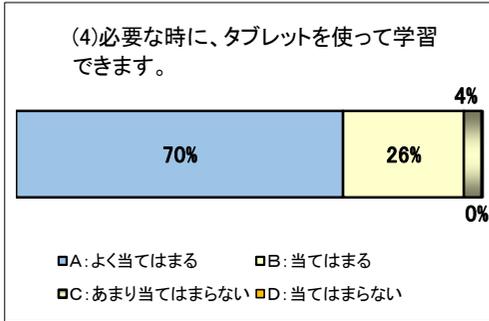
(2)児童の肯定的な回答が3%上昇したが、保護者の肯定的な回答は69%となっており、23%が「判断がつかない」と回答している。児童一人一人に寄り添う指導や関係機関との適切な連携を継続するとともに、保護者への周知方法の工夫を図る。

(3)児童の肯定的な回答が昨年度を4%下回ったが、保護者の肯定的な回答は2%上回った。大人が範を示していく大切さについて教職員で共通理解を図ったり、あいさつ運動など児童主体の取組を工夫したりすることで、あいさつ習慣を身に付けさせるよう努めていく。

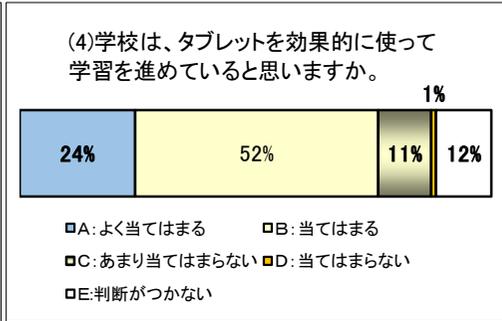
【(1)～(3) 学校関係者評価委員会の意見】

- ・子供からのあいさつを待つのではなく、大人側(教師、親)から積極的にあいさつをするように心がけると、さらにより結果になると思う。
- ・毎月、登校の見守りとあいさつをしている。子供たちが元気よくあいさつしてくれるので、寒い日でもたくさんパワーをもらっている。あいさつ習慣は身に付いていると思う。
- ・下校時に、自ら元気にあいさつする子がおり、とても気持ちよくうれしく思った。
- ・今後も不登校、いじめに対しての気配り、取組を強化していただきたい。

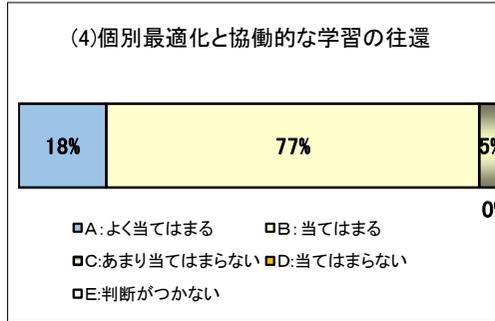
令和4年度 児童



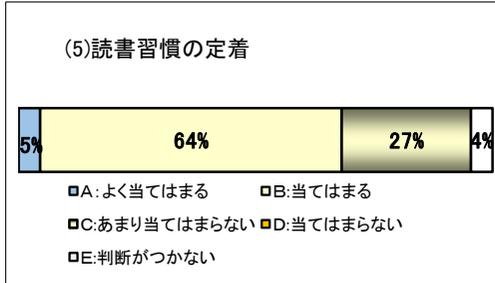
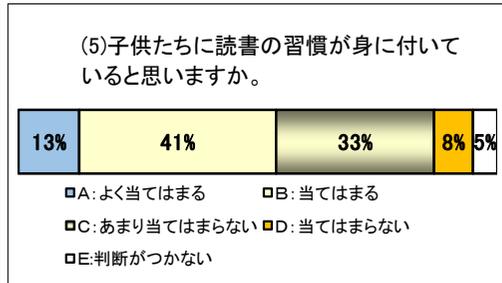
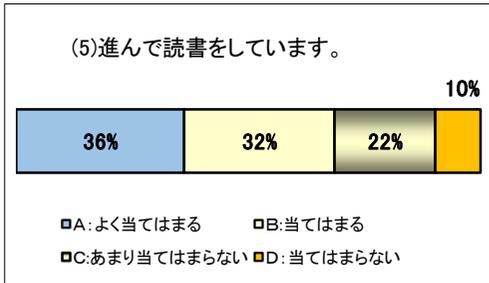
令和4年度 保護者



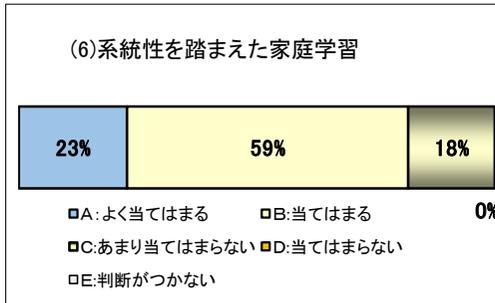
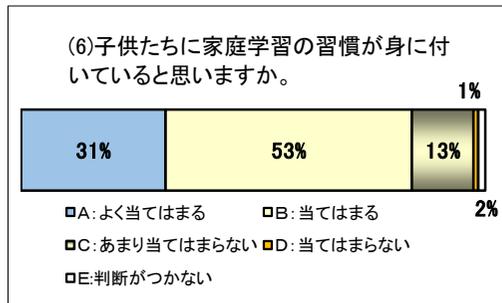
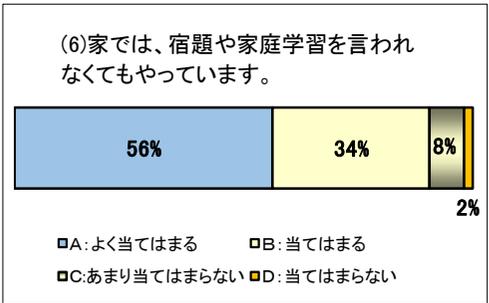
令和4年度 教職員



(4)児童の肯定的な回答は昨年度とほぼ同様であるが、保護者の肯定的な回答が昨年度よりも11%上昇し、「判断がつかない」との回答が、昨年度よりも14%改善した。教職員内でタブレット活用に係る研修を行うなど授業の質の向上に努めるとともに、タブレット活用場面のメール配信など保護者周知の工夫を図っていく。



(5)児童の肯定的な回答は昨年度とほぼ同様となっており、保護者の肯定的な回答は5%上昇した。PTA図書係や苦小牧市中央図書館等と連携を図りながら、児童が「本を読みたい」と思うような取組や、本を借りやすい環境整備を図っていく。

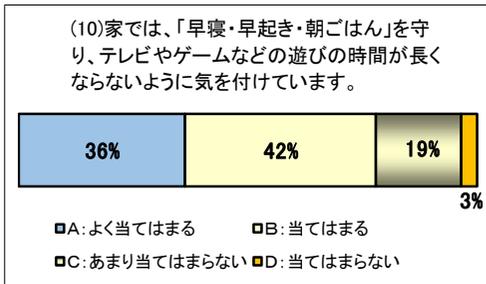
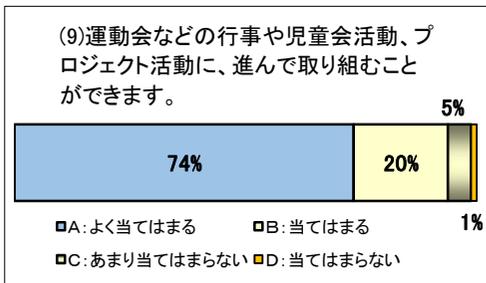
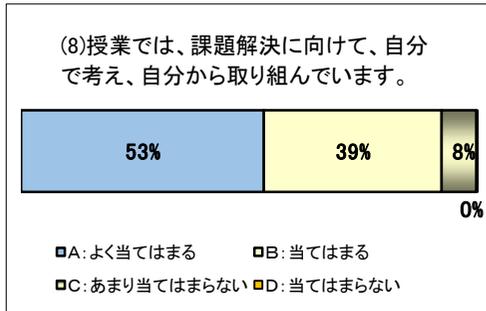
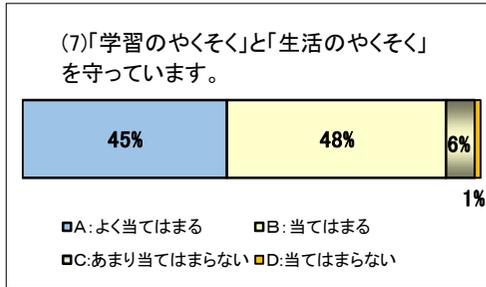


(6)児童の肯定的な回答は昨年度と同様となっており、保護者の肯定的な回答は、昨年度よりも3%上昇した。家庭学習強化週間の取組を中核に、習慣化と質の向上につながる指導をしていく。
【自由記述より】
家庭学習でのタブレット活用を望む意見があったことから、市教委の通知等を踏まえながら対応を検討していく。

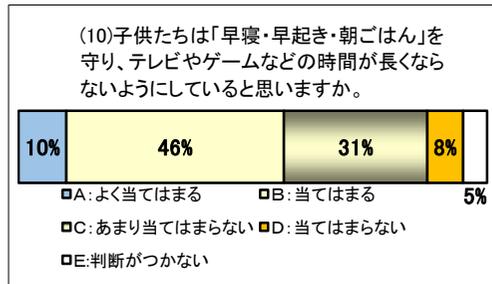
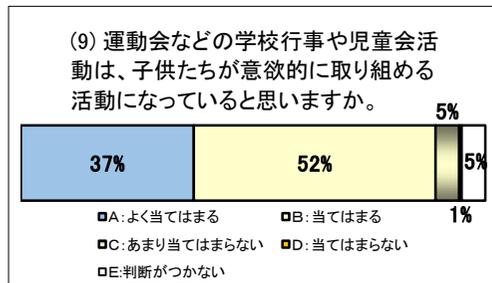
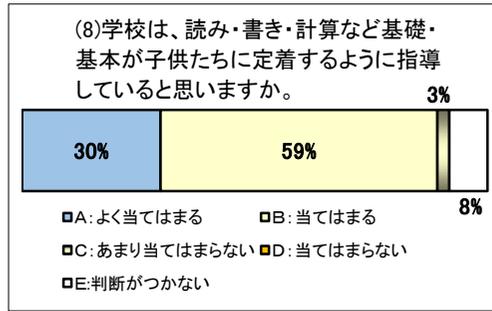
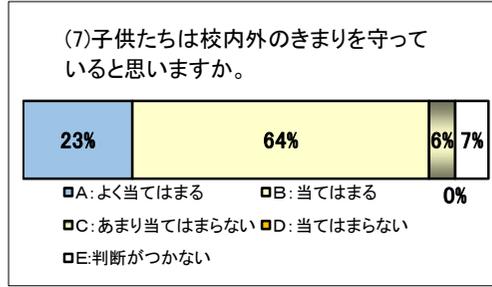
【(4)～(6) 学校関係者評価委員会の意見】

- ・時代がそうなのでタブレットの活用は否定しないが、課題解決に最も大切なのは思考過程である。デジタル機器は学習の動機付けには有効であるが、思考する過程で発生する新たな疑問や課題の解決につながるかは疑問である。課題によっては、辞書を活用したり、話し合い活動を取り入れたりすることも大切と考える。教育に限らずデジタル的なものとアナログ的な物を上手に活用することも学校教育に求められる。
- ・タブレットの積極的な活用について、出席停止時などの際に家庭学習としても使用することができている。
- ・家庭での読書習慣よりは、学校での読書習慣が身に付いていると感じる。
- ・教職員のタブレット活用の取組が、学習効果につながっている。
- ・家庭学習の習慣は親の役割が大きいと思うが、習慣化できていない子供には教職員の指導をお願いしたい。

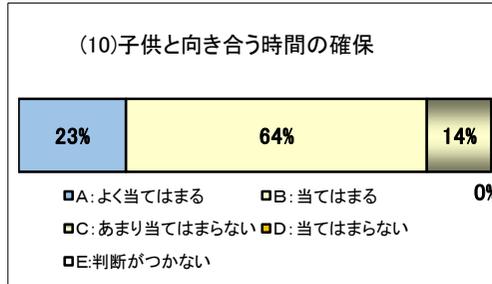
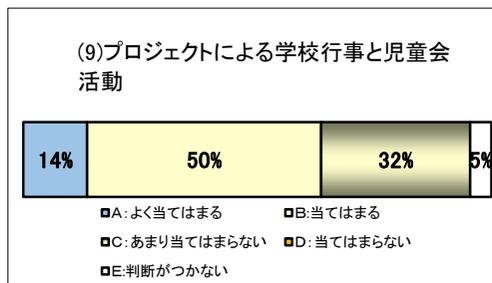
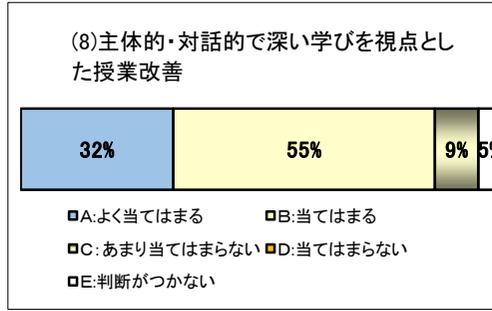
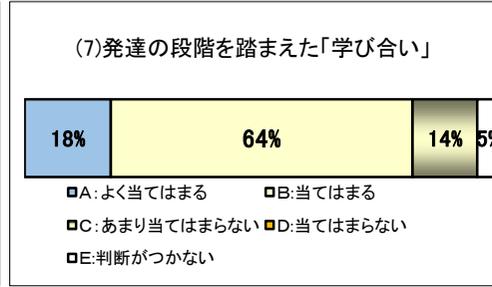
令和4年度 児童



令和4年度 保護者



令和4年度 教職員



(7)児童の肯定的な回答は昨年度と同様となっており、保護者の肯定的な回答は、4%上昇した。きまりを守ることによってみんなが気持ちよく生活できることを実感できる指導をしていく。
【自由記述より】
自家用車での児童送迎時における約束の徹底を望む意見があったことから、改めてメール等で呼びかけていく。

(8)児童、保護者ともに肯定的な回答が昨年度とほぼ同様となっている。引き続き「豊川小スタイル」を意識した授業を全学級・全教科等で行う。特に、タブレットの活用と友達・文書等との対話を効果的にミックスした授業づくりを心がけ、基礎的・基本的な知識や技能の習得につなげていく。

(9)児童、保護者ともに肯定的な回答が昨年度とほぼ同様となっている。児童が必要を感じ、主体的に実行できるような活動を工夫していく。
【自由記述より】
運動会の土曜日開催、従前日程での参観日開催、学習発表会の座席の位置、マスク着脱等についての意見があったことから、感染状況を踏まえながら変更や対応を検討する。

(10)児童、保護者ともに肯定的な回答が、昨年度を4%下回った。望ましい生活習慣について授業等で指導の工夫をするとともに、学校だよりや保健だより等で生活習慣の改善・向上につながるような働きかけをしていく。

【(7)～(10) 学校関係者評価委員会の意見】

- ・コロナ禍で「きまり・約束」が多くなってきたせいか、子供だけでなく先生方もストレスを感じていることと思う。その中での学校側の様々な工夫や対応には頭が下がる。
- ・子供が楽しいと感じる「授業・家庭学習・行事」がいちばんである。授業時数を確保するのも大変だが、「子供ファースト」で頑張してほしい。
- ・子供たちは、ルールを守っていると思う。
- ・学習発表会は、英語での発表、歌、演奏、ダンスなどいろいろとミックスされており、子供たちの成長を感じた。とてもよかった。
- ・子供たちが生活のきまりを実感できる取組を行ってほしい。

【その他 学校関係者評価委員会の意見】

- ・ブラック企業と言われるくらい先生方の労働環境はコロナ禍になってから、さらに厳しいものとなった。それでも子供たちのためにと、日々研鑽に励んでいる先生方にエールを送りたい。
- ・子供たちが毎日楽しく学校生活を過ごせるように、学校に行くのがうれしい、クラスメイトと会えるのが楽しみ、勉強楽しいとなることを願っている。
- ・子供たちの未来のため、引き続き教育活動に力を入れていただきたい。

学校関係者評価委員会

学校評議員(3名)	主任児童委員(2名)
PTA会長	PTA副会長(3名)
校長	教頭